

安心して暮らせる力強いまちづくり

福知山市議会議員

# 片山まさき

議会報告 No.5 号

(令和6年9月24日 発行)



今年の夏は世界的な猛暑により各地で観測史上最高の平均気温を記録しました。本市におきましても連日 猛暑日が続くなか、熱中症対策の備えが呼び掛けられましたが、彼岸を前にして、ようやく朝夕はしのぎやすい季節となったところであります。皆様方には夏の疲れが出やすい時節、くれぐれもご自愛ください。さて、去る8月29日に11月1日までの65日間会期の9月定例会が開会し、一般会計・特別会計合わせた総額437,378千円の補正予算、並びに関係条例が上程され、慎重審議のうえ本日可決されました。なお9月9日に追加提案されました「令和5年度決算認定議案」につきましては、引き続き慎重審議を継続してまいります。

## 議会運営委員会・議会改革検討会議による管外視察研修

8月7日に愛知県岩倉市議会を訪問し、災害発生時に備えた「業務継続計画(BCP)」の策定に向け先進地事例の視察研修に取り組みました。翌8日には愛知県犬山市議会を訪問し「議員政治倫理条例」について研修を深めました。犬山市議会においては愛知県下全市町村の条例制定状況等を調査し、過去に発生した不適切事案の原因や問題を解決できる条例を制定しておられ、本市議会においても非常に参考になる条例であると感じました。両市議会での視察研修を糧として、議会運営、並びに議会改革検討に努めてまいります。



## 由良川改修促進に関する国土交通省・京都府への要望活動

平成25年9月の台風18号災害以降、幾度となく見舞われた大災害を受け、由良川流域住民の安心安全な暮らしを守るため、京都府建設交通部長、並びに国土交通省近畿地方整備局河川部長に更なる由良川改修整備促進を要望しました。今後も令和5年8月に改訂された「由良川水系河川整備基本方針」に基づく「由良川水系河川整備計画」の早期見直しを求めるとともに、「由良川水系流域治水プロジェクト」の具現化を引き続き求めてまいります。



## 【一般質問】

### 1. 巨大地震を踏まえた防災対策の推進について

**片山** 令和4年4月策定の「福知山市都市計画マスタープラン」に「都市計画法に基づく防災街区整備事業等の手法を検討し、密集市街地の解消を目指します」と計画が位置付けられているが、事業化に向けた取り組み状況をお聞かせ願いたい。

**答弁** 今年度、京都府の委託を受け実施する都市計画基礎調査において、市街地における建築物の密度や構造築年数等について調査し、その調査結果を踏まえ、今後、市街地の安全性等について分析をおこない、「防災街区整備事業」の事業化検討を進めてまいります。

**片山** 老朽化する木造家屋が密集する中心市街地を縦断する幅員16メートルの「都市計画道路 広小路正明寺線」を整備することにより、密集市街地の延焼防止ラインを確保することができるとともに、道路周辺の土地も取り入れた「防災街区整備事業」により、安心安全な市街地整備と合わせた居住環境の改善を図ることができる。

今後、発生可能性が危惧される巨大地震を踏まえ、「防災街区整備事業の具現化」に、今こそ取り組むべきと考えるが、具現化に向けた意気込みをお聞かせ願いたい。

**答弁** 能登半島地震に伴う輪島市の大規模火災を踏まえて令和6年7月12日付けで国土交通省が発出した通達に基づき、都市計画基礎調査によるデータを分析し市街地の安全性等、現状や課題を検証しながら「防災街区整備事業などの事業化」について検討を進めたい。

### 2. 災害ハザードエリアにおける安心安全なまちづくりの推進について

**片山** 市内に2,363箇所点在する土砂災害警戒区域のうち、市の道路等の公の施設が土砂崩れを起こした場合、住民の生命財産に被害を及ぼす可能性があり、市として対策を講じる必要がある箇所はいくらあるか。

**答弁** 市内全域を調査した結果、土砂災害警戒区域2,363箇所のうち、急傾斜地において土砂災害が発生した際に、建築物に損害が生じ、住民の生命または身体に著しい危険が生じる区域とされている土砂災害特別警戒区域が1,397箇所存在しており、そのうち道路等公共物が一般家屋等よりも高い位置にあり、崩壊することで一般家屋等に被害を及ぼす恐れがある箇所が59箇所存在することが判明した。

**片山** 昨年12月定例会において、私が極めて危険であるため何らかの対策工事を講じる必要があると訴えた三俣地区の土砂災害特別警戒区域(指定番号:ほ1029-2)は、対策を講じる必要があると位置付けられた59箇所の中に含まれているか。

**答弁** 三俣地区の土砂災害特別警戒区域(指定番号:ほ1029-2)については、家屋よりも高い位置に市道「池田上安場線」があることから、対策を講じる必要があると位置付けた59箇所の中に含まれている。

**片山** 対策を講じるための工事施工に向けた今後のスケジュールをお教え願いたい。

**答弁** 対策工事については、今後、現地状況を詳細に確認し、必要度、緊急度、経済効果をもとに、財源確保にも努めながら、改修計画を策定し実施をしま

いりたい。

### 3. 市道「笹場小野線」の更なる整備促進について

**片山** 「地域間交流促進ネットワーク事業」として整備が進められている市道「笹場小野線」の「計画道路幅員」「道路延長」「総事業費」並びに「現在の進捗状況」についてお聞かせ願いたい。

**答弁** 市道「笹場小野線」は「計画道路幅員5メートル」「道路延長1,450メートル」「総事業費約5億円」の計画であり、平成30年度から事業に着手し令和5年度末時点の進捗率は25パーセントとなっている。

**片山** 本事業は、地方創生道路整備推進交付金を活用し事業を進めているが、この交付金は数多くの市区町村に交付される交付金であり、本市においても市道5路線、林道2路線、合計7路線を対象としているため、単年度における事業費予算配分額は限られ、事業進捗を図るうえで、解決すべき重要課題である

と考える。こうした課題を解決するためには、本市の国土強靱化地域計画に基づき、国の「防災・安全交付金」等の新たな財源を活用し、市道「笹場小野線」の事業進捗を図るような取り組みが必要である。

更なる事業推進に向けた検討に期待する。

また、市道「笹場小野線」の笹場側の工事計画区間は「庵戸橋北詰」までとなっているが、緊急避難用道路としてその役割を担わせるためには府道「岩崎市島線」に接続するところまで工事計画区間を延伸することが必要不可欠と考える。

計画の延伸に向けた考えをお聞かせ願いたい。

**答弁** 市道「笹場小野線」は地域の避難輸送道路として位置付けており、笹場や小野が孤立しないための避難路であることから、まずは現在の事業採択箇所の早期完了に向けて地域と地域が繋がるように進めたいと考えている。

**片山** 市道「笹場小野線」の果たすべき役割は「笹場集落と岩間小野集落の地域交流」のみならず、府道「福知山綾部線」の前田交差点から、都市計画道路「前田岩間線」を抜け、岩間小野集落から市道「笹場小野線」を経由し、最終的には府道「岩崎市島線」にタッチするという「広域幹線道路」の一翼を担う道路として、本市の先人の皆さんが実現に向けて計画を進めてこられた道路であるとお聞きしている。道路というのは地域住民の移動のための交通インフラとしての役割だけでなく、商工業等の地域経済を支える重要な都市インフラとしても、その役割を担うものである。

「災害時の代替道路」、「産業振興」等々、多岐にわたる役割を担う市道「笹場小野線」の早期完成に向けた取り組みに、今後も大きな期待を寄せながら、引き続き見解を求めてまいります考えである。

発行元: 片山まさき事務所

620-0831 福知山市字岩崎 159 番地の 3

TEL/FAX 0773-27-1265

E-mail markikun.k@gmail.com